

## 第 15 回 APHS 2019 参加報告

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 外科 長谷川拓男

2019 年 10 月 3 日から 5 日に開催された、APHS 2019 について報告させていただきます。

今回は、アジアの人気リゾート地の一つであるバリで開催されました。成田や関空からは直行便で 7 時間ほどの場所でありアクセスに恵まれ、時差も 1 時間ほどしかなく、日本からも多数の参加がありました。私は E-poster での発表でした。ポスターセッションだけでも 70 近い演題の登録がありました。内容はガイドライン、鼠径ヘルニア、腹壁ヘルニアはもちろん、ロボット手術、小児のヘルニア、食道裂孔ヘルニアなどのセッションもあり幅広くカバーされていました。

今回の学会のテーマは **Black & White** でした。日本語では白黒付けるとなるのですが、順番が逆になるのですね。この **Black & White** はバリのいたるところでギンガムチェック柄の布としてよく見かけます。街中の小さな仏像や大きな木に巻かれていたり、特に寺院ではそこら中で見かけます。そういえば、今回の学会会場となったバリヌサドゥアコンベンショナルセンターの玄関口の石像にも巻いてありました。この白黒柄の布はポレンと言われ、バリのヒンディー教の魔除けになっており、その宇宙観を表しているそうです。白と黒が意味するものは善と悪、表と裏、光と影、生と死、功と罪、など両極をなすものだそうです。すべてのものには対なるものが同時に存在し互いにバランスをとっており、そして悪いと思える出来事もその裏には大切な何かが必ず存在することを表しているそうなのです。ヘルニアにおいても TAPP か前方アプローチか、IPOM か IPOM+か、などなど当てはまる事案がたくさんあります。今回の学会でも活発な討論がなされていました。実に意味深いメッセージを持ったテーマだと思いました。

この度は APHS Scholarship 2019 に選出していただき誠にありがとうございました。今回の貴重な経験をこれからのヘルニア診療にいかし、さらに日本ヘルニア学会の発展に寄与することができればと存じます。